

平成 24 年度研究成果情報

課題名: 効果的なタイラギ稚貝の移植技術の開発

[背景・ねらい]

タイラギ(学名 *Atrina pectinata*)は、有明海佐賀県海域における冬季の主要漁獲対象種であるが、2001 年度以降原因不明の「立ち枯れ斃死」の発生により、漁獲量が低迷し、タイラギ漁業者の漁業経営は極めて厳しい状況となっている。

そこで、「立ち枯れ斃死」する可能性がある漁場の天然稚貝を、斃死のリスクが少ない漁場に移植する技術を開発することにより、養殖手法の確立や、母貝集団の創出によるタイラギ資源の再生産力向上を目指した。

[成果]

- (1) 佐賀市沖合で採捕した天然タイラギ稚貝を太良町の太良沖及び竹崎沖(ともにモイ殻散布・耕耘により、造成した漁場、水深約 10m)に船上からばらまいて放流(以下、「ばらまき放流」とする。)したところ、いずれも稚貝が潜砂することが確認された(図1)。
- (2) このことから、水深 10m 程度の漁場であれば、稚貝の移植による養殖が可能であることを確認し、移植法としては、稚貝が自ら潜砂する性質を利用した「ばらまき放流」が効率的であることを確認した。



図1 ばらまき放流後潜砂したタイラギ稚貝(左:竹崎沖、右:太良沖)

[課題・問題点]

- ・ 移植方法の開発については一定の成果が得られたものの、今後も潜砂したタイラギ稚貝の追跡調査を継続的に実施する必要がある。また、太良町沖合は夏季の貧酸素や降雨による低比重の影響により、移植可能な漁場が限られていることから、今後、他の海域において放流適地を選定していく必要がある。

[今後の対応]

- ・ 「ばらまき放流」 漁場の追跡調査の実施
- ・ 太良町沖合以外での放流適地の選定 等

[その他]

研究期間:平成 24 年度～

研究担当者:資源研究担当 福元 亨